

# 標準化に関する懇談会 結果概要

日時 2019年6月25日 16:45-17:30

場所 経済産業省 大臣官房特別会議室

## 1. 参加者からの主な発言

### 【産業界】

#### <ルール形成・標準化の重要性>

- サービス分野でも、企業活動のグローバル化に際し標準が重要に
- 日本の質が高いサービスの世界展開、ひいては社会課題の解決のためのツールとして標準は有効
- 標準を作るだけでは不十分であり、相手国に使わせる仕掛けづくりが大切
- 規制と標準の双方に取り組み、日本製品の市場環境を整備することが必要
- IoT時代のビジネスモデルの検討においては、ものづくりの強みを活かしつつ、インターフェースとしての標準を活用
- 世界的なフォーラムへの打ち込み

#### <企業の意識向上の必要性>

- ルール形成ツールとの認識の向上を含め、中小企業に対する支援の充実
- 標準士などの環境整備含め、標準化の認知度の再構築の取組
- 企業の中に、「自社のとがった技術を標準化が丸くする」というネガティブな印象があるように感じる。これを取り払う努力が必要

#### <人材の重要性>

- 標準化活動を行う上でカギとなる人材の育成
- 国際機関の会長ポストの確保も含め国際プレゼンスの向上
- 研究開発機関に企業から人材を送り、標準化に取り組みさせるなど、人材育成手法の多様化、活性化

#### <横断的分野の対応>

- IoT や SDGs など、横断的分野に対応する体制の構築
- 国対国の調整が必要な場合、国と連携した活動の必要性

### 【独法等】

- 国内の標準に関する団体のネットワーク化による価値創造

- 領域横断的な標準化テーマが増加する中、中立的な立場の研究者を擁する組織として貢献
- 研究開発プロジェクトにおいて、当初より社会実装を見据えた標準化等に取り組む
- これまで培った標準化ノウハウを積極的に他法人へ横展開
- 製品や電気分野の安全性に関わるノウハウを活かした標準化活動の実施

## 2. 世耕大臣の発言

- サービス分野を含めて、戦略的に標準化やルール形成に取り組む。日本企業の国際的な競争力強化に繋がるルール作りを国としても推進。
- コネクテッドインダストリーズの取組は、領域・業界をこえて繋がることに価値があり、また、難しさもある。その実現のために、標準化が不可欠であり、経産省が間に立って積極的に調整役を担っていく。
- 国際機関のポスト獲得を含め日本のプレゼンスを高める努力も必要。
- 標準化人材は若いうちから標準化活動の経験を積ませ、育てることが必要。企業の中で評価、処遇が向上する取組を求めたい。
- 独法や日本規格協会には産業界の更なる支援を期待。特に産総研の領域横断的な取組の深掘り、NEDO の知見の他独法への展開を求めたい。